



渚滑っ子

学校HPコード



教育目標：人間性豊かな児童の育成

～気付き、築く子どもの育成～

令和6年10月25日発行

文責：校長 木村 智史

よい癖を付けるために（日常を大切に）

人には「癖」があります。その癖は人それぞれですが、私は人生において、人は、「癖」を付けるために生活していると思っています。

毎朝、起床して何をしますか？

人によって、歯を磨いたり、顔を洗ったりします。すぐにランニングしたりストレッチをしたりすることもあるでしょう。

では、この「癖」は生まれながらに付いているものなのでしょうか。いいえ、そうではなく、家の人が根気強く「癖」が付くように躡けてくれたり、自分が新たにあとに取り入れたりのものです。

つまり、癖というのは人の本能ではなく、よりよく生きるために、あとで身に付けた「生き方」であることがいえます。

でも、この癖はやっかいなもので、自分で気付かないうちに身に付いてしまい、知らずのうちに嫌な癖を身に付けてしまうこともあります。生活習慣がまさにそれで、「ゲームを夜遅くまで続けてしまう癖」「優先順位を考えずにあとでやればよいという癖」「脱いだ服をそのままに

してしまう癖」「挨拶できない癖」…。

前置きが長くなりましたが、渚滑小学校では、「気付き・築く子どもの育成」を重点に教育活動を進めています。簡単に言えば、「自分、他人を知り、自他との関係づくりを通して自分を築いていく」ということ。

今回は、最近の教育活動の中で、「よい癖」づくりをしてきた成果と思える様子をご紹介します。



【放課後、相談が始まる職員室】

【その1 学習を自走する子の癖】



本校は、完全複式学級です。複数の学年が1つの教室で、それぞれの学習内容を展開します。担任は1人ですから、指導者がいない時間ができます。この時間を子供たち

に「自走」させます。つまり、子供たちだけで学習を展開させるのです。

「教えられる」ことに慣れてしまう子は、学びが受け身になってしまいます。そのような「癖」を付けずに、知識や学び方を自分でつかむことを念頭に授業を進めています。

では、「指導者の役割とは？」と尋ねられますが、任せきりになることなく子供たちが気付いていないことや、もっと学習を深めてほしいことを、問うのです。

「…ということは違う方法でもできるってことね。」

「〇〇の視点に変えて考えてみても同じかな？」

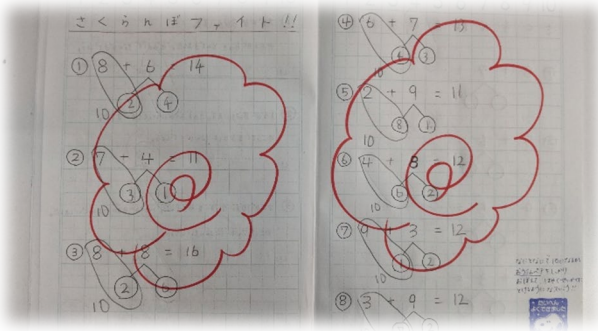
など、思考を揺さぶるのです。



【その2 自主学習の癖】

宿題ではなく、自ら課題を設定して、家庭で取り組む学習です。

日常の授業で身に付けた知識を深めたり、自分の課題だと感じた学習内容を家庭で振り返ったり、フォローアップするものです。「家庭学習で何をしたらいいかわからない…」と悩む子が多い中、こうした取組を通して、その子の学び方の癖づくりをしています。



【その3 学習を生活環境に生かす癖】

このポスターは、廊下に掲示されているものです。

高学年の国語に「提案する」学習があります。

誰に？ どのように？ 目的は？ 説得力を生み出す工夫を学習します。

廊下を安全に歩行することを提案するために、ストレートに

「廊下は歩きましょう」という主張ではなく、「忍者」というキーワードを使っています。忍者のイメージを使って、低学年にも分かるメッセージとなっています。

「それは、誰に言っているの？」と「相手意識」をもつ癖づくりがここでも活用されています。



【その4 活動の見通しを付ける癖】

これは、「収穫祭」に向けた児童の活動予定表です。「癖付け」は計画と振り返りで決定付けられるものです。なんとなく進めて、「よかったね。」で終わる活動にせず、目的を達成するために計画し、見通しをもたせ、やってみて何がどう良かったのか視点を定めることが大事です。

作物の世話が少しおろそかになり、実施の有無の論議も重ね、今月末に収穫祭を実施する運びとなりました。



【その5 学びに向かう準備をする癖】

この癖は、机の中の様子です。

案外、指導法に目が行きがちですが、実は根本にある「学びに向かう姿勢」が整っていない場合があります。

朝の会をしているのに、かばんが机の上にあったり、次の学習の準備をせずに休み時間をとったり。

登校したら「学びの準備をする」ことが大事です。

このように、「よい癖を学校としてどう付けていくか？」

を職員だけでなく、保護者と地域が共有する必要があることがお分かりかと思いますが。

